令和８年度 大阪市子ども読書フォーラム レジュメ

日時：令和 8 年 9 月 2 日(水) 15 時～17 時
場所：大阪市立中央図書館 5 階 大会議室

1　開会あいさつ

2　報告

・「第４次大阪市子ども読書活動推進計画」令和 7 年度各取組の状況報告

・「第５次大阪市子ども読書活動推進計画」について

3　フォーラムテーマ「10 代と読書の距離を縮めるヒント
～家庭・学校・図書館・地域で支える読書のきっかけ～」

（１）講演「10 代の読書離れについて」
片岡 則夫氏（公益財団法人図書館振興財団）

（２）事例報告「友渕中学校「絵の本ひろば」の取組について」
福本 碧氏（大阪市立友渕中学校教諭)、
高垣 多恵氏（友渕中学校元気アップ地域本部・地域コーディネーター）

＜休憩＞

（３）パネルディスカッション
片岡 則夫氏(公益財団法人図書館振興財団)、
中西 利恵氏(神戸常盤大学教授)、
福本 碧氏（大阪市立友渕中学校教諭)、
高垣 多恵氏（友渕中学校元気アップ地域本部・地域コーディネーター）
進行：戸倉 信昭（中央図書館利用サービス担当課長）

4　閉会

[配付資料]
・レジュメ
・「第 5 次大阪市子ども読書活動推進計画」(本編・概要版)
・資料 1 令和 7 年度「第 4 次大阪市子ども読書活動推進計画」の実施状況(取組目標・指標)」
・資料 2 講演「10 代の読書離れについて」
・資料 3 事例報告 大阪市立友渕中学校「絵の本ひろば」の取組について
・質問用紙

令和8年度大阪市子ども読書フォーラム

10代と読書の距離を縮めるヒント

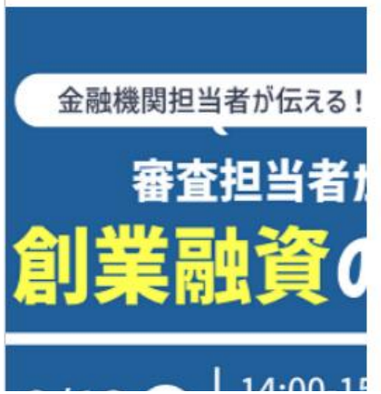
～家庭・学校・図書館・地域で支える読書のきっかけ～

令和8年9月2日(水)15時～17時

大阪市立中央図書館5階大会議室







図書館の活動

大阪市立図書館が行っている様々な活動をご紹介します。

読書推進活動

大阪市立図書館では、日頃から読書活動の推進に向けてさまざまな取組を進めています。

- 第5次大阪市子ども読書活動推進計画
- 「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」実施報告書

実施報告書（PDF版）

「大阪市子ども読書活動推進計画」は、子どもの読書活動を推進するため、乳幼児期から読書に親しめる環境、子どもと本とを結びつける人が身近にいる環境を醸成し、子どもの読書活動を支援するための施策の方向性と目標・指標を示すことを目的とし、平成18年3月に「大阪市子ども読書活動推進計画（PDF形式：1,340KB）」、平成25年3月に「第2次大阪市子ども読書活動推進計画」、平成30年3月に「第3次大阪市子ども読書活動推進計画」、令和4年3月に「第4次大阪市子ども読書活動推進計画」を策定しました。令和8年3月、第4次計画の満了にともない、「第5次大阪市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

第5次計画は、第4次計画期間中の成果と課題をふまえ、パブリック・コメントを通じた市民の幅広い意見を反映したもので、大阪市のすべての子どもが生き生きと読書を楽しめるよう、「子どもの読書環境の整備・充実」「子どもの読書活動に関する普及・啓発」「子どもと読書に関わる人のつながり作り」の3つの観点に基づき取組を進めてまいります。

令和8年度より、情報交換・交流の機会として「大阪市子ども読書フォーラム」を開催し、前年度の取組状況について報告します。

なお、令和7年度までは、各区・大阪市全体の子どもの読書活動に関する情報交換の場として「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」を開催し、「『大阪市子どもの読書活動推進連絡会』実施報告書」として取組状況を掲載しています。

今後とも、子どもの読書活動をより一層豊かにするため、様々な取組みを進めていくとともに、市民の方にわかりやすい情報発信に努めてまいります。

大阪市子ども読書フォーラムにおける報告資料

■ 令和8年度

- 令和8年度大阪市子ども読書フォーラムにおける報告資料（PDF形式：5,168KB）

学校図書館の活性化について

平成27年度　学校図書館活用推進事業開始
全小中学校に学校図書館補助員を配置。事務局機能を中央図書館地域サービス担当学校図書館支援グループが担う。

令和４年度　全小中学校と義務教育学校に「**学校司書**」を配置　週１日・６時間（回数・時間はそれまでの学校図書館補助員と同じ）
うち、市内24校（各区１校）に「**主幹学校司書**」を配置　週４日・30時間
中央図書館に「学校図書館コーディネーター」を配置

令和５年度　25学級以上の11校に学校司書を加配　週２日・12時間（週１日・６時間加配）

令和８年度　「多文化共生支援担当学校司書」をモデル配置

●学校図書館貸出冊数（児童生徒1人当たりの年間貸出冊数）【本市調査】

		学校司書配置前	配置1年目	配置2年目	配置3年目	配置4年目	目標
		R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	R7末目標
小学校	全体	28冊	32冊	32.2冊	33.1冊	31.9冊	38冊
	うち主幹配置校	-	43冊	45冊	47.9冊	43.8冊	
中学校	全体	2.8冊	2.8冊	2.7冊	2.8冊	2.6冊	6冊
	うち主幹配置校	-	4.8冊	4.4冊	5.8冊	6.7冊	

●授業での学校図書館活用
「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合
【本市調査（大阪市小学校学力経年調査）】

	学校司書配置前	配置1年目	配置2年目	配置3年目	配置4年目	目標
	R2実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	R7末目標
全体	69.7%	69.8%	69.6%	81.4%	82.8%	80.0%
うち主幹配置校	–	73.3%	76.3%	90.6%	85.0%	

学校図書館

学校図書館の機能を活用した外国につながる児童生徒・教員への支援

課題

- ◆ **日本語習得の保障**の取組みにおいて、児童生徒一人一人に日本語習得レベルに合わせた教材作成等による教員の負担増
- ◆ アイデンティティの形成に重要な**母語・母文化の保障**、多様な価値観や文化を持つ子どもらが相互に高め合う**多文化共生教育の推進**への対応が必要

取組

- ◆ 図書および情報収集の専門的なスキルを有する**学校司書（多文化共生支援担当）のモデル校への配置**
  モデル校は、日本語指導担当教員配置校のうち、**各教育ブロック小学校1校・中学校1校（合計８校）**
  週３０時間（週５日）勤務の会計年度任用職員を、**小学校１校専任４名、中学校２校兼務２名配置**予定

  日本語指導担当教員と連携し、日本語指導の時間や、通常の教科指導等において児童生徒一人一人の日本語習得レベルに合わせた資料の提供などにより日本語習得を支援する。



- ◆ 母語・母文化、国際理解に関する図書、情報の収集等、市立図書館からの図書の借り受けを含めた環境整備により、外国につながる児童生徒の学習支援や学校全体での多文化共生支援の充実を図る。

具体的取組



日本語習得の保障

- 児童生徒一人一人の日本語習得レベルに合わせた日本語指導のための教材選びの支援
- 教科指導において、個々の日本語習得レベルに応じた関連図書（低学年向けや、やさしい日本語で書かれた資料など）を用意して、授業参加を支援
- 放課後、休み時間を活用した、外国につながる児童生徒の自学自習の支援



母語・母文化の保障

- 外国語の図書、情報の収集・提供
- 日本語と外国語が併記された資料、日本語訳のある資料、日本の出版物で外国語に翻訳された資料の収集・提供
- 母国を舞台とした絵本や母文化を紹介する資料の収集・提供
- 児童生徒が母文化を学ぶ際の情報収集の支援



多文化共生教育の推進

- 声に出して楽しめる絵本や、文字なし絵本、日本の手遊びやわらべ歌などともに楽しめる絵本の読み聞かせ
- 児童生徒の母国の文化を取り扱った資料の図書展示
- 共通する文化（年中行事やじゃんけんなどの遊び）を扱う図書を媒介にした、お互いの文化に触れる取組

見込まれる効　果

児童生徒への適切な資料提供など学校図書館の機能を活用した支援の充実・教員の負担軽減　＝　**外国につながる児童生徒の教育環境の改善・充実**

令和8年度 各区子どもの読書活動推進連絡会のまとめより

区ごとに年に一度「区子どもの読書活動推進連絡会」を開催し、関係者間で情報交換を行っています。

- **事務局**　各区市立図書館

- **参加機関・団体等**
  - ・読書活動支援ボランティア
  - ・子育て支援施設
  - ・就学前施設
  - ・学校
  - ・区役所
  - 等

令和8年度 各区子どもの読書活動推進連絡会のまとめより

●デジタル接触の増

・タブレット・スマホ・動画・ゲームに時間を取られ、本離れ

・「紙の本」体験の価値

・デジタル否定ではなく「入口」になり得る視点も

●読書の二極化

・読む子は読む・読まない子は全く読まない

・保護者の関心も二極化

令和8年度 各区子どもの読書活動推進連絡会のまとめより

●家庭への波及

・保護者への働きかけ

●現場の実践

・読み聞かせ　おはなし会の効果実感

・担い手不足　高齢化

・参加者の低年齢化

・外国にルーツのある子ども

・読まない子への入り口づくり

第５次
大阪市子ども読書活動推進計画

大阪市立中央図書館

この計画は…

- 大阪市のすべての子どもが生き生きと読書を楽しめる読書環境の整備をめざす計画
- 「子ども読書推進法」(平成13) の、自治体ごとに計画を定めるよう努める、という規定を受けた計画

↓

国をあげて進めていこう！

大阪市全体で盛り上げていこう！



計画のあゆみ

- 平成18年（2006）、最初の計画を策定
- 以降、数年ごとに計画を見直し。
- 令和4年（2022）に策定した第4次計画の計画期間が令和7年度で終了することから、後継の計画として、第5次計画を策定。
- 第5次計画の計画期間は 令和8～11年度の4年間。

第4次計画の成果と課題

- 読書をしない子どもの割合（不読率）
  - ・小・中学生とも全国平均から隔たりがある
  - ・小学生に比べて中学生が本を読まない傾向がある

- 読書が好きだと答える子どもの割合
  - ・72～74%だが、目標値には届かず



第4次計画の成果と課題

- 読書環境整備に向けた取組
  ・市立図書館と区役所等との連携事業回数が大きく伸びるなど、一定の実績をおさめている。

- 取組がまだまだ知られていない
  ・ホームページアクセス数が伸び悩むなど、広報啓発や周知活動に課題がある。

現場の声から…

・高学年になるにつれ読書離れの傾向
・読む子・読まない子の二極化
・ゆっくり読書する時間が取れない
・親世代が本を読む習慣がなくなりつつある



・大人が読書の魅力を知って、子どもに働きかける機会を増やすべき
・活動やイベントを多くの方にアピールすべきでは

そこで、第5次計画は…

- 基本方針や目標などは第4次計画からほぼそのまま受け継ぐ
- 課題を解決するために、具体的な取組の充実や手法の見直しを行う
- 計画の冊子に、参考事例や写真、用語解説といったコラムを織り込み、計画自体が普及啓発に活用できるように工夫した



どうすれば
子どもは本を読むようになるか…

- 読書を柔軟にとらえる

  子どもの興味関心がどこにあるか、子どもが読みたいのはどんな本かを把握し期待に応えられるよう、**幅広いジャンルの本に気軽に触れられる**読書環境の整備が必要。紙媒体か電子か、活字の本か漫画か絵本かなどにとらわれることなく、**読みたいと思える本が身近にあれば子どもは本を読むようになる。**（計画 p.4～5）

第5次計画の「3つの観点」

観点１　子どもの**読書環境の整備・充実**

観点２　子どもの読書活動に関する**普及・啓発**

観点３　子どもと読書に関わる**人のつながり作り**

第5次計画の「3つの観点」

観点１　子どもの読書環境の整備・充実

・発達段階に応じて途切れない読書環境の整備

・外国につながる子ども、障がいのある子どもも含め、多様性に応じた対応で読書習慣を形成

・紙の本とデジタルそれぞれの特性を理解し、その両方を活用できる能力の育成

第5次計画の「3つの観点」

観点２　子どもの読書活動に関する普及・啓発

・積極的な情報発信

・大人への理解促進を意識

・イベント開催、紙媒体、ウェブやSNSの活用など、
目的や内容に応じた手段を用いて情報発信

第5次計画の「3つの観点」

観点３　子どもと読書に関わる人のつながり作り

・ボランティア、教職員、企業・団体など、子どもの読書に関わる人のつながり作り

・読書活動支援のネットワーク形成により、社会総がかりで子どもの読書活動を推進



具体的な取組から…

読むことに障がいのある子どもたちのために

- 点字図書、LLブックなど「アクセシブルな書籍」の普及、利用促進
- 教員への研修などで理解を促進
- 令和8年度中に「大阪市読書バリアフリー計画(仮称）」を策定



具体的な取組から…

外国につながる子どもたちのために

・日本語習得、母語・母文化に触れる機会の充実

・学校図書館の機能を活用した多文化共生支援



多文化交流事業での読み聞かせ
西淀川区「にーよんTABUNKA」
（第5次計画本文 p.17に掲載）

具体的な取組から…

各区「子どもの読書活動推進連絡会」を継続

・年1回、読書活動推進に関わる人が集まり、情報共有、意見交換を行う 各区「子どもの読書活動推進連絡会」を開催

・課題を明らかにし、解決の糸口を見いだす

・各区連絡会で出た意見や事例を集約し、全市で情報共有

具体的な取組から…

新たに「大阪市子ども読書フォーラム」を開催

- 年1回開催してきた「（全市）大阪市子どもの読書活動推進連絡会」を発展的解消
- 子ども読書活動推進のシンボルイベントとして、計画の進捗確認のほか、参考事例や先進的な取組の紹介に重点を置き、気運や関心を高める
- 今年度は9月2日に中央図書館で開催





読書に親しむ子どもを
ひとりでも増やせるよう
力を合わせてまいりましょう！

